

News Letter

■ 第 26 号 ■

山口大学 産学公連携・創業支援機構

2008年3月6日

CONTENTS

■新機能性材料展2008出展報告	1
■アグリビジネス創出フェア2007に出展	2
■特許マップ作成講習会を開催	2
■Japan Venture Awards 2008 起業支援家部門奨励賞受賞	3
■共通教育科目「学ぶ技術・アクティブラーニング」の 実施報告	3
■注目のこの一冊「理系なら知っておきたい ラボノートの書き方」のご紹介	4
■セミナーのお知らせ	6
■デジタル山口大学 放映のお知らせ	6

発行	山口大学地域共同研究開発センター
連絡先	〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16-1
電話	0836-85-9951 FAX 0836-85-9952
e-mail	jim@crc.yamaguchi-u.ac.jp
URL	http://www.crc.yamaguchi-u.ac.jp

新機能性材料展2008出展報告

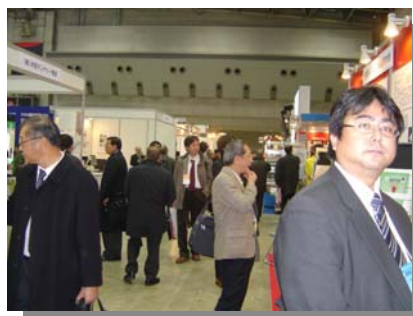
2月13日(水)～15日(金)の3日間、東京ビックサイトにおいて、新機能性材料展2008が開催されました。山口大学からは、(有)山口ティー・エル・オーが主体となり「九州・山口TL0連合」と銘打ち、他5TL0機関と連合で、計12コマの大掛かりなブースを企画し、山口大学教員研究テーマをポスター展示しました。新機能性材料展は、nano tech2008、ナノバイオ2008、表面処理材料総合展と同時開催で、ナノテク・材料関係の、日本最大の展示会の一つで、来場者総数は三日間合計で約5万人と過去最高の人出となりました。実際、共同出展した各TL0のスタッフからも、「他の展示会にない盛り上がり」との手ごたえを感じる声が聞かれました。

山口大学・(有)山口ティー・エル・オーからは、下記3件の教員・関連機関の研究テーマについて発表しました。

- 工学部 合田公一教授
「改質天然繊維を強化材とする新しい複合材料の開発」
- 工学部 諸橋信一教授
「小型化可能なナノテク電子デバイス用
新型対向ターゲット式多元スパッタ装置」
- エコマス(株) (山口大学発ベンチャー企業)
「材料試験用非接触歪み計測機“DICM2”」

実際、(有)山口ティー・エル・オーブース総計で、約150名の企業関係者の方々に研究テーマについて説明を行い、具体的な個別のディスカッションに進展する例もあり、今後の展開が期待されています。

産学公連携・創業支援機構では、来年度も、この種のイベント出展を企画しておりますので、教員の皆様におかれましても、ご協力をお願い致します。最後に、年度末のお忙しい時期にもかかわらず、ブースでのご説明に御協力頂いた、合田教授、諸橋教授はじめ、関係者の方々に御礼申し上げます。



アグリビジネス創出フェア2007に出展

平成19年11月27, 28日の2日間、東京国際フォーラムにおいて行われた「アグリビジネス創出フェア2007」に本学から出展を行いました。

本フェアは農林水産省が主催する農業関係の総合展示会で、研究機関等が有する技術シーズと民間企業等が有するニーズとの出会いの場を設け、産学官連携による実用化・産業化を推進する目的で行われたものです。

本学からは農学部のシーズとして、以下の2テーマを出展いたしました。

- 生物資源環境科学科 山本晴彦教授
「農産物のフィールド生体情報のモニタリング」
- 生物資源環境科学科 執行正義准教授
「新規交配技術により得られたビタミンCリッチなネギ系統とその育種的利用」

フェア期間中は昨年度を倍近く上回る9400人が会場を訪れ、農水関連の知財・産学連携意識の高まりが実感されました。また知的クラスター創生事業の成果物である人工気象装置や農学部オリジナルデザインの紙袋も好評で、にぎやかなフェアに花を添えていました。



特許マップ作成講習会を開催

知的財産本部の主催で、「特許マップ作成講習会」が、1月7, 8日に常盤キャンパスで開催されました。産業技術総合研究所栗原健一氏を講師に招き、特許基礎知識、特許情報検索、特許マップ作成についての講義と併せて、パソコンを使っての実習が行われました。

本講習会は、平成17年度から引き続いて開講していますが、「特許マップ作成インストラクター養成」のための講座も兼ねたものであり、講習会では、多くの実習を交えて丁寧に非常にわかりやすく説明され、約20名の教職員、学生は質問を活発に行い熱心に受講しました。本研修会のアンケート結果によれば、今回の研修会は、初心者にとってわかりやすい内容で非常に有意義な講習会であったと好評でありました。

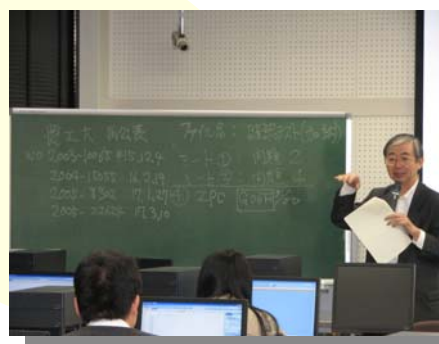
なお、本講習会は、3月5, 6日には、吉田キャンパスでも開催しました。

インストラクター制度の効果は、①学生インストラクターが特許出願のための資料・データ等の整理や特許マップの作成等をするることによる多忙な大学教員への支援、②知財啓蒙や知財教育による若手人材・学生の育成、③知財教育を重視する企業等への社会貢献及び就職活動への大きな期待、④出願時の弁理士費用低廉化による法人運営費の大幅節減にもつながるものです。

今後、就職活動や大学運営のためにも本制度を大いに活用いただきたいと思います。



佐田知財本部長の挨拶



栗原講師による講義

前田 禎彦 元インキュベーションマネージャー

Japan Venture Awards 2008 起業支援家部門奨励賞受賞

この度、元山口大学インキュベーションマネージャーであり、現在も山口大学のインキュベーション施設に入居しているベンチャー企業に対して御指導いただいている前田 禎彦氏が、Japan Venture Awards 2008で起業支援家部門奨励賞を受賞されました。

Japan Venture Awardsとは、日本全国に新たな事業に果敢にチャレンジしている起業家やその人たちを支える起業支援家を対象に、優秀なロールモデルを広く国民に示すため2001年から毎年表彰事業を実施している制度です。

表彰対象部門は、「起業家部門」、「シニア部門」、「起業家支援部門」及び「起業教育部門」の4部門があり、今回、前田氏は、起業家支援部門で選ばれた5人の中の1人として、奨励賞を受賞されました。

受賞理由は、山口大学発のベンチャー企業で2002年3月から2007年3月までに起業した8社が全て前田氏の支援によるものであること、さらには、学生に対する起業家精神の教育にも大変熱心に取り組まれ、アントレプレナーシップ育成プログラムへの関与や、前田氏のアドバイスのもとブラッシュアップを行ったビジネスプランが、キャンパスベンチャーGP中国大会にてグランプリ1件（2007年）、次点の部門優秀賞2件（2006年）を獲得するなどの多大な貢献が評価されてのものでした。

山口大学にとって、前田氏の貢献は計り知れないがあります。今までの山口大学に対する御支援に感謝申し上げますとともに、今後とも起業家の創出に向けて大いに御活躍いただくことを期待しております。



前田 禎彦氏（上段右）

共通教育科目「学ぶ技術・アクティブラーニング」の実施報告

ベンチャービジネス育成施設では、平成19年度後期に共通教育科目「学ぶ技術・アクティブラーニング」を開設しました。我々はこの科目を「広義のアントレプレナーシップ育成科目」と位置づけており、「人間力の主体的向上」を全体のテーマとしてシラバスを構成しました。本講義の講師には、この分野で顕著な実績をお持ちで評価の高い（株）アクティブラーニング代表取締役社長の羽根拓也氏をお迎えし（写真上段）、アクティブラーニングが提唱する成長／進化の技法の中から、学部1年生の段階で身に付けておく有効性が高いと考えられるものをいくつか抽出し、特徴的なグループワークを織り交ぜた講義で受講者に体得させる形で進められました。

本年度の講義では、自身の人間力育成に対する「他者の存在の意味」を受講生に考えさせることに特に力点が置かれていました。毎回の講義で行われるグループワーク（写真下段）は、自らを他者に投影し、また他者が自らに投影される中で「自分とは何か？コミュニティの中で自分は今どのレベルにいるのか？」を受講生に認識させる非常に効果的な方法であるし、羽根氏の配慮で数回設けて頂いた「自分と背景の異なる他者と相対する場」は強烈な記憶となって受講生に残ったと思われます。このような「場」を多く経験することが「自己」(identity) を確立するきっかけとなりうることを、受講生が後に認識してくれば講義の目的は達せられたと評価しても良いのではないのでしょうか。

本講義は平成20年度も開設されることが決定しており、現在我々とアクティブラーニング社は20年度講義に向けた内容のブラッシュアップ作業を行っている最中です。本講義に対する受講生の評価は極めて高いものがあるが、講義の内容同様講義自身も「進化し続ける」ことを目指し、更なる履修効果を与えるための仕掛けを準備しているところです。

この取り組みを継続することで履修生が所属学部において縦のラインを形成、ひいてはそれが本学学生のアクティビティー向上につながれば望外の喜びです。



講義の様子（遠隔講義の回）



グループワーク中の受講生

注目のこの一冊「理系なら知っておきたい ラボノートの書き方」のご紹介

【1】 やっと出た…すべての研究者に読まれて然るべき1冊！

もう、悩まない なぜ書く？どう書く？が、実例とポイントで一目瞭然！これが、スタンダード！

この度、埼玉医科大学医学研究センターの岡崎康司氏と政策研究大学院大学の隅蔵康一氏の編集で、「理系なら知っておきたい ラボノートの書き方」が、羊土社より発刊されました。定価本体2,500円＋税で、現在、全国で好評、発売中です。山口大学からも下記メッセージを付けて、推薦、ご紹介させていただきます。

この本では、推奨ラボノートとして、山口大学とコクヨS&Tが共同開発して大好評、発売中の研究ノート「RESEARCH LAB NOTEBOOK(リサーチラボノート)」が紹介されています。

なお、下記の本も併せて参考にされたいかがでしょうか。

「知財創出・管理環境リスクマネジメントに係る調査研究
～大学における「研究ノート」の使用実態と今後への課題 成果報告書」
(東京大学先端科学技術研究センター知識創造マネジメント専門職育成ユニット)，2007年3月；
http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/documents/2006mext/r2_01.pdf

さらには、セミナー(6ページ掲載)にも出席していただき、知的財産の保護に役立てて下さい。



【2】【山口大学からのメッセージ】

研究ノートの使用については、内閣官房知的財産戦略本部や文科省が強く推奨しているところですが、山口大学でも毎年、知的財産事業計画に上げて盛んに啓蒙・啓発活動を行っております。

山口大学では、平成17年4月に、「研究ノート(RESEARCH LAB NOTEBOOK、リサーチラボノート)」をコクヨS&Tと共同開発しましたが、平成18年4月からは、これまでのスタンダードタイプに、学生向けの廉価版のポータブルタイプ、企業向けのハード表紙の高級タイプが加わりました。これらリサーチラボノート3タイプは、全国の大学生協や一般の文房具店で販売し、大好評であります。(コクヨS&Tでは、08年3月末まで、リサーチラボノートの名入れ無償キャンペーンを行っておりますので、どうぞこの機会をお見逃しなくご活用下さい。)



リサーチラボノート3タイプ

【3】なお、先般、山口大学知的財産本部長の佐田洋一郎教授が、日経BP社からラボノートについてインタビューを受けましたので、参考に、そのインタビュー記事を下記の通り転載してご紹介させていただきます。

■インタビュー■

□佐田洋一郎氏(山口大知的財産本部長・教授)

「ラボノートは知的財産の保護に非常に有効なツールです」

○山口大学とコクヨの事業会社のコクヨS&Tは、研究開発記録用の「ラボノート」を共同開発し、2005年4月から販売を始めた。その共同研究の山口大側の責任者を務めたのが佐田教授である。以前所属していた特許庁の審判部などで、特許の帰属や発明人を決めたり、その貢献度を決める争いに審判を下すなどの業務を遂行した時に、発明者である研究者がラボノートに研究開発記録を残すことの必要性を痛感した経緯から、日本でのラボノートの開発を進めたという。そのラボノートの重要性を聞いた。

「理系なら知っておきたい ラボノートの書き方」のご紹介 次ページに続きます

○「ラボノートは知的財産の保護に非常に有効なツールです」と、声高に薦めています。
「ラボノート」「研究ノート」などと呼ばれる研究開発記録用ノートは、研究者などが実験データや発明のアイデアなどを随時記録し、その記録内容を第三者などが確認することで、だれが当該の発明をいつしたかを証明する記録ノートです。

現在、コクヨS&Tが「リサーチラボノート」の名称で販売しているラボノートは、ノートとしての見開き性が良く、繰り返しの開閉に耐える丈夫な製本になっており、法的な証拠書類となるように認証の日付や確認のサインを書き込む個所が入っています。そのうえに、研究記録の改ざんを防ぐために、連番表示や製本のかがり糸の色を変えるなどの工夫が盛り込まれています。

ラボノートが必要な理由は、知的財産を正しく保護するためです。研究過程を詳細に記録したラボノートは、その当該アイデアをだれが考えたのかなどの発明者を特定するのに不可欠です。例えば、大学と企業などとの共同研究では、研究者が複数いるため、だれのアイデアかが問われることがあります。その時に、ラボノートの研究記録が判定に役に立ちます。同時に、共同研究では各研究者の発明の権利持ち分を決める必要がある場合があります。発明完成時に“発明者主義”で発明の持ち分を決める際には、ラボノートの記録が重要になります。

米国は先発明主義を採用しているため、発明日を自分で立証することが必要になります。米国に特許出願する場合はもちろん必須ですが、将来、米国などの発明者とどちらが先に発明したかを争う可能性が高い発明の場合も重要なことです。米国の研究者は多くがラボノートに研究記録を書き込んでいます。

ラボノートを法的な証拠書類にするには、確認者の署名（サイン）が必要になります。研究記録がその日に記入されたことを証明するには、最適な確認者の署名が必要です。ただし、これを厳密に実行するには、手間と費用がかかるのが悩みです。企業などでは、職制上の決済業務の一環として、部長や課長などの上司が確認者となると、信憑性（しんぴょうせい）が高いとみられています。大学・大学院では、職制があまり明確ではない場合もあるため、知的財産本部の担当者の署名でも十分なケースがあります。共同研究の場合は、研究者同士が相互に署名し合って、アイデア創出の発生経緯や発明の寄与率を確認し合うことも望ましいと思います。

ラボノートの記録は、できるだけ定期的に記入する習慣をつけることが重要と、研究者には説明しています。研究者がたまに気が向いた時に記録するのは、不自然さを指摘されることになりがちだからです。

（聞き手は丸山 正明＝日経BP社産学連携事務局編集委員）

出典：「特許流通ニューズメール」 平成19年度第18号 2007. 12. 17

（発信者：独立行政法人工業所有権情報・研修館、
財団法人日本特許情報機構、日経BP社）

なお、更に詳しい内容は、下記の日経BP知財Awarenessサイトに、ARTICLE「研究ノートは知的財産を保護し管理する必須ツールです」という記事で掲載されていますので、どうぞご参照下さい。

<http://chizai.nikkeibp.co.jp/chizai/etc/20080124.html>

セミナーのお知らせ

★誰も教えてくれなかった「ノートの活用術」

参加費無料

～ノートは創造活動の原点である～

元商社のビジネス戦士が実践で培ったノウハウを一挙公開～

日 時：平成20年3月17日（月） 13:30～

会 場：山口大学常盤キャンパス ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 3階セミナー室

主 催：国立大学法人山口大学

講演者プロフィール：樋口健夫 氏



アイデアマラソン研究所所長

日本想像学会理事

アイデアマラソン発想システム考案者

主な著書

- (1) 「一冊のノートで始める力・続ける力をつける（*こう書房）
*平成20年3月3日発売
- (2) 「金のアイデアを生む方法」（成美堂出版 文庫）
- (3) 「できる人のノート術」（PHP文庫）
- (4) 「稼ぐ人になるアイデアマラソン仕事術」（日科技連出版社）

プログラム：13:30～ 開会挨拶

13:35～ 特別講演「ノートの活用術」

16:15～ 山口大学作製の研究ノート紹介

16:30～ 質疑応答

お申し込み・お問合せ先：国立大学法人山口大学知的財産本部

Tel：0836-85-9964 Fax：0836-85-9967

E-Mail：chizai@yamaguchi-u.ac.jp

デジタル山口大学 放映のお知らせ

放映中

★デジタル山口大学「支援します！知的財産～産学公連携・創業支援機構の活動～」

チャンネル：山口ケーブルテレビジョン 12チャンネル

放映日時：3月1日（土）～15日（土） 15:30～15:45

参考URL：<http://www.c-able.ne.jp/06tv/12vertime.html>

<http://www.c-able.ne.jp/06tv/12ch.html#dejiyama>

なお、この番組はケーブルテレビでの放映以外に、山口大学のホームページ

<http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~www-yu/digiya/index/>

において、常時、視聴することも可能です。

山口大学ホームページ>>放送サービス>>デジタル山口大学 から、

第104回：「支援します！知的財産～産学公連携・創業支援機構の活動～」を
選んで下さい。



山口大学 産学公連携・創業支援機構

地域共同研究開発センター

Collaborative Research Center, Yamaguchi University

連絡先：〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16-1

発行：山口大学地域共同研究開発センター TEL:0836-85-9951 FAX:0836-85-9952

E-mail:jim@crc.yamaguchi-u.ac.jp ホームページ：<http://www.crc.yamaguchi-u.ac.jp>